

催し物のご案内・利用案内

新型コロナウイルス感染症拡大状況により、イベント等の日程や内容を変更することがあります。お出かけの際は、当園の公式ホームページやSNSで最新情報をご確認ください。

企画展示 観賞温室第2室	
開催中 4/11(日)	スプリング・ガーデン
4/13(火) 5/16(日)	にいがたの花 シャクナゲ・ツツジ
5/19(水) 7/11(日)	人と植物のかかわり コーヒー

作品展示 観賞温室第3室1階	
4/6(火) 4/25(日)	はなみどり写真コンテスト作品展 ◆出展:公益財団法人新潟県都市緑花センター
4/27(火) 5/16(日)	松岡達英 自然絵本の世界 ◆出展:新潟県立植物園
5/19(水) 6/6(日)	ボタニカルアート展 ◆出展:下越ボタニカルアートの会
6/8(火) 6/27(日)	花と花のある風景写真展 ◆出展:秋葉写真クラブ


シャクナゲまつり **5/1(土) 5/5(水・祝)**

豪華絢爛! 樹齢50年を超える大株30品種 100本以上のシャクナゲが次々に咲き誇ります。

まつり期間中は毎日ガイドも実施。観賞温室内の企画展示「シャクナゲ・ツツジ展」とあわせてお楽しみください。

令和3年度 シャクナゲサポーター募集!

当園のシャクナゲ園は、「品種数日本一」を目指しさらに充実していきます。そんなシャクナゲ園を私たちと一緒に育て、日本中にPRしてくださるサポーターを募集します。協賛金は1口5,000円から。活動内容など、詳しくは当園ホームページをご覧ください。

施設ご利用にあたって  新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、以下についてご理解とご協力をお願いいたします。

- 入館前の手指アルコール消毒
- マスクの着用
- お客様同士の距離確保
- 体調がすぐれない場合の入館自粛
- 混雑時には入館制限を行います

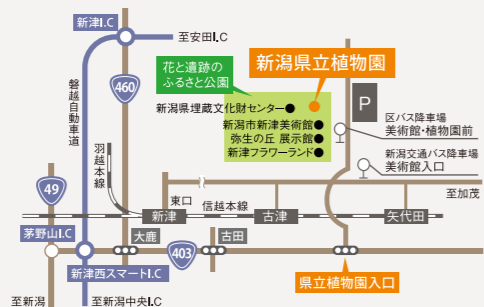
観賞温室開館日 温室開館時間9:30~16:30(入館締切16:00)		
4 April	5 May	6 June
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ 1 2 3	・ ・ ・ ・ ・ 1	・ ・ 1 2 3 4 5
4 5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12
11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19
18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26
25 26 27 28 29 30 ・	20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 ・ ・ ・

休館日

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP <https://botanical.greenery-niigata.or.jp/>
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

ツイッターフェイスブック、インスタグラムで開花やイベントの情報を発信しています。フォローお願いします。



屋外園地無料／無料駐車場300台収容

観賞温室利用案内	個人	団体 (20名以上)	回数券 (5回分)	定期券 (6ヶ月)	定期券 (12ヶ月)
大人	600円	480円	2,500円	1,200円	2,000円
シルバー (65歳以上)	500円				4月からお得な年間バスポートを販売します!
高校生・学生	300円	300円			
小・中学生	100円	100円			

●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要です。
●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要です。
●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。

JR	信越本線古津駅下車徒歩約25分
バス	区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分 新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分 ※日・祝運休
高速道路	磐越自動車道新津ICから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
一般道路	(新潟方面から)国道49号から茅野山ICを国道403号加茂/新津方面へ20分

NIIGATA Prefectural Botanical Garden NEWSLETTER

新潟県立植物園 植物園だより

2021 spring Vol.81



タムシバ <モクレン科>
Magnolia salicifolia

タムシバは、コブシによく似ているが、コブシのように大木にはならず高さ3~5mの落葉高木である。本州、四国、九州の山地に広く分布しているが、本州中部以北の日本海側の多雪地にある山地の尾根沿いに多く生育している。葉は、披針形または卵状披針形で長さ6~12cmとコブシより小さく、裏面は粉白色である。葉をちぎると一種の芳香を放散するので「ニオイコブシ」とも呼ばれている。4~5月ごろ、出葉前に枝先に一個ずつ乳白色の花を咲かせる。コブシの花とほとんど差異はないが、花片はやや細い。また、花柄下部に小さな一枚の葉がないことがコブシとの大きな違いだといわれている。果実は、でこぼこのある円柱形の集合果で、成熟すると破裂し、中から赤い仮種皮に包まれた種子が現れる。

解説:富樫信平(要約)



県立植物園 新たな5年間に向けて

私共、国際総合学園・都市緑花センターグループは、令和2年度までの第3期(1期5年)に引き続き来年度より5年間延長して管理運営を行うこととなりました。

さて、2020年1月からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の急速な拡大は、世界中で多くの重篤者や死者を出し、また人々の活動や移動が制限されたため、日常生活や経済活動も混乱を招くなど、当初の大方の予想を超えた大きな脅威となりました。

新型コロナウイルスだけではなく、SARSや鳥インフルエンザなどの動物由来感染症の発生は、野生動物と人の直接の接触を防いでいた緩衝帯が、開発等により破壊されたことが原因の一つであるとされています。自然に起こる1,000倍の速度で生物が絶滅することで生物多様性が失われ、また地球温暖化により自然災害が激甚化していることなども、一見新型コロナウイルスと関係のないように見えますが、根は同じく自然環境の破壊が原因となっていると言われています。

このような状況で、植物園は植物多様性保全の拠点として、ますます重要な役割を果たしていかなくてはならないと感じています。絶滅危惧植物の保全活動はもちろん、今後5年間では、次の世代を担う子どものための環境教育に特に力を入れていきたいと考えています。その第一弾となるのが、春にオープン予定の「おやこ植物園」です。

また、当園が注力してきた、新潟県の重要な園芸産物で、日本一の生産量を誇るツツジやアザレア、シャクナゲの仲間(ロードデンドロン)をさらに収集、植栽することで、日本一のロードデンドロン・ガーデンをつくることも計画しています。緑化活動としては、引き続きいがたコーヒープロジェクトと協力し、コーヒー文化の醸成とともに、コーヒーノキを育て、豆を収穫する楽しみをご提供いたします。

今後、植物園がどのように社会に貢献できるか、また多くの方々に植物を楽しんでいただけるか、県民の皆様と一緒に考え、進めていきたいと思ひます。

園長 倉重祐二



企画展示

にいがたの花 「シャクナゲ・ツツジ」

令和3年 4/13(火) 5/16(日)

新潟県がシャクナゲやアザレアの日本一の生産地であることを背景に、新潟県立植物園ではツツジやシャクナゲの野生種、園芸品種の収集、保存を進め、現在までに1,000種類以上を保有するに至っています。開園20周年の平成30年に整備されたシャクナゲ園では、樹高4~6mの西洋シャクナゲの大株150本が4月下旬から5月中旬に見ごろとなります。また、企画展示では、シャクナゲやツツジについてより深く知っていただけるよう植物学的解説や、世界や新潟での栽培の歴史解説に加え、栽培温室で育成している保有コレクションの展示を行います。園地では迫力あるシャクナゲの大株を、観賞温室では貴重な野生種や華やかな装飾展示をご覧いただけるシャクナゲ尽くしの植物園にぜひお越しください。



以前の展示の様子

植物園NEWS 1

ジュニアドクター育成塾を通して



アルソミトラの種の模型



受講生がまとめたノート

植物園では、昨年度より新潟大学の「ジュニアドクター育成塾」に協力しています。

2回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの講義となりました。植物園に子どもたちが集まってきた1回目と異なり、実物を見ながら話をすることができません。そこで、事前に身近なタネを何種類か集めておく、という課題を用意しました。

当日は、倉重園長の「植物と人間のかかわり」についての講義の後、私からは、「タネもしかけもある種」として、各々が集めてきたタネを見せてもらったり、あらかじめ届けておいたアルソミトラの種子模型をみんなで飛ばしたりしながら、種子の散布様式についてお話ししました。

のちに子どもたちから提出してもらったレポートからは、以前学んだトキの保護との関連づけや、ご飯を食べるときに植物のどこを食べているか考えてみたなど、自分と自然・植物とのかかわりを改めて意識した様子がうかがえます。後日、家族で植物園を訪れてくれた子どもも複数見られました。

対面で行う講座ほど、表情を見て話し方を変えたり、問いかけたりして、直接生の声を聞きながら進めることは叶いませんでしたが、子どもたちの理解は予想を上回っており、今後のオンライン講座の展開にもつながる成果を得ることができました。今後も教育施設としての使命感を持って取り組んでいけたらと思います。

(林 寛子)

植物園NEWS 2

バックヤードでのアザレア管理

今年も華やかに開催されたアザレア展。会場の観賞温室には150品種600鉢ものアザレアで埋め尽くされました。このたくさんのアザレアは全て植物園が保有するコレクションで、普段はバックヤードで育成しています。

展示期間外のアザレアの管理について少しご紹介します。アザレアは自然に咲かせるとツツジのように4月から5月頃に開花します。よって、冬に開催する企画展示に合わせて促成栽培を行っています。今年の展示は1月27日からでしたので、その時に丁度開花させるためには前年の12月末からバックヤードの栽培温室で加温を始めます。湿度を保ちながら加温し、花が咲きそろうよう管理します。数ある品種の中には加温しても全く開花が進まないものがあります。これらはあえて

促成せず、他の栽培温室で管理し、時期をずらして咲かせ、次の展示に使用します。品種ごとの特性に合わせた管理によって長期間アザレアを展示することができ、より大勢の方から楽しんでいただくことが可能となります。

(近藤智子)



加温開始から3週間後はまだ全体に緑色です



品種の特性などはカラーラベルで表し、鉢を仕分けるときに一目で分かる工夫をしています



展示1週間前には蕾も色付き間もなく開花です

園内ウォッチング

ぴかー植物

国内有数のボタンコレクション

当園のボタン園は観賞温室第1室(熱帯ドーム)の脇に位置しており、毎年4月下旬から5月上旬にかけて、早咲きのもから遅咲きのものへと花のリレーが続きます。保有する品種は、「紫雲殿」や「新天地」、「九十九獅子」などの新潟県内作出品種をはじめ、大阪や島根そしてフランスやアメリカで作出された品種もあります。中には「雪月花」や「重獅子」など今から100年以上前に作出されたと言われている品種も保有しています。数としては約200品種1,500株あり、品種数は県内随一で、日本国内でも屈指です*。

「立てば芍薬すわれば牡丹」と歌人に歌われ、「百花の王」や「富貴の花」という敬称をもつあでやかさと、悠久の時を経てなお愛される深い魅力を持つボタンを楽しみに、今年ぜひ当園のボタン園にお越しください。

(丸山真也)

*国内では岩手県や福島県などに300品種程度の大きなボタン園があります。



紫雲殿

雪月花

